

第3号様式（第7条関係）

令和元年11月29日

開成町議会議長 吉田 敏郎 様

開成町議会議員 下山 千津子
(代表)

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 (調査事項又は研修項目)	「令和元年度議員県外行政視察」 兵庫県たつの市 ① 市民乗り合いタクシー運行事業について 兵庫県相生市 ② 子育て応援施策 11の鍵について
目的地	① 兵庫県たつの市 住所：兵庫県たつの市龍野町富永1005番地1 ② 兵庫県相生市 住所：兵庫県相生市旭区1丁目1番3号
期日(期間)	令和元年10月30日（～令和元年10月31日）
視察又は 研修の成果	別紙のとおり

神奈川県開成町議会視察研修会出席者名簿

役 職	議員名	所属政党	備考
議 長	吉田 敏郎	無所属	
副 議 長	前田せつよ	公明党	
議 員	下山千津子	無所属	代表
議 員	佐々木 昇	無所属	
議 員	武井 正広	無所属	
議 員	茅沼 隆文	無所属	
議 員	星野 洋一	無所属	
議 員	井上 三史	無所属	
議 員	山本 研一	無所属	
議 員	石田 史行	無所属	
議 員	井上 慎司	無所属	

随 行

議会事務局長	小宮 好徳
議会事務局書記	指宿 卓哉

県外視察成果報告書

代表幹事 下山 千津子

全国的に高齢化が進み、足が無ければ何処にも行けない、町の活性化にもならないとし、先進的に取り組む兵庫県たつの市の市民乗り合いタクシー運行事業を視察した。2005年に龍野市、揖保郡新宮町、揖保川町、御津町が合併して「たつの市」が誕生した。市の中心部に位置付ける龍野町には、武家屋敷や白壁の土蔵が今も残っており、城下町の面影から「薩摩の小京都」と呼ばれているようだ。

また、日本を代表する童謡として親しまれている「赤とんぼ」の作詞家三木露風の生誕地でもあり、食では手延素麺「揖保乃糸」が特産品である。

市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」は、平成29年4月から市内全域で運行開始しシステムは、利用者が利用したい時間や行きたい場所を事前に予約することで自宅まで車両が迎えに行き送迎するサービスであった。開成町の巡回バスとは、規模もシステムも違い課題はあるが、高齢者や足の確保策に対する町民のサービス事業には変わりがないと感じた。

2日目は、相生市の「子育て応援都市」の宣言をし「子育て応援施策“11の鍵”」を作成し、子育てしやすい環境を整え人口減少対策や定住促進を推し進めている市である。例を上げると1. 家賃の補助 2. 家の新築に奨励金 3. 妊婦の健康検査にかかる費用（14回分）の助成 4. 充実した英語教育では、ワンピース・イングリッシュ事業に取り組んでいる等々。どれも若い世代の定住促進策として魅力ある事業だが「課題が生じた時の解決策は」の間に首長の強い思いの中で職員は知恵を出しあって取り組んでいる。大変印象に残った言葉でした。

派遣成果報告 兵庫県たつの市 令和元年 10 月 30 日 (水)
「市民乗り合いタクシー運行事業について」

たつの市は、平成 17 年に市町合併をして誕生した総人口は 76,394 人(令和元年 7 月現在)、面積 210.87 k m²で南北に長い地形になっている市である。

「市民乗り合いタクシー」を利用するには事前登録が必要であり、登録後に利用したい日時を事前に電話で予約すると、自宅(または指定場所)まで迎えの車両(10 人乗りのワゴン車)が行き、他の人も乗り合って決められた目的地まで送るサービスである。帰りは、目的地から自宅(または指定場所)まで送ってくれる。また、目的地から目的地への移動にも利用できる。

目的地は交通結節点(駅や区域内の路線、コミュニティバス停留所)、医療・福祉施設、金融機関、商業施設、公共施設・学校園で基本的には市内にあるこれら全ての施設が目的地に指定されている。

市内を 5 つの区域に分け基本的には区域内での利用となっているが、中心に位置している 3 つの区域は他区域への利用が可能となっている。区域外への移動手段としては鉄道、路線バスなどと共に、南北連結ルートのみ残して運行しているコミュニティバスも活用されている。

運行業務は市内タクシー事業者 5 社とバス事業者 1 社に委託しており、それら事業者による運行共同体が設立されている。この運行共同体と運行曜日、時間帯、運行区域の指定、目的地(乗降場所)等を協議し、持続可能な公共交通の構築に努めているとの事である。

「市民乗り合いタクシー」の運行を決定してから現在に至るまでの「たつの市地域公共交通網形成計画」の策定、コミュニティバスの見直し、運行共同体との協議などの説明はとても参考になった。

自治体規模の違いはあるが、事業に関しては本町と類似する所が多く、非常に有意義な視察となった。

「子育て応援施策 11の鍵について」

○相生市の概況

総人口は29,416人(令和元年7月)、面積は90.4km²

兵庫県の西南端に位置し、JR山陽本線と山陽新幹線の相生駅、国道2号と250号の2つの国道など多くの交通アクセスが備わったまちである。

また、明治時代からの石川島播磨重工業(IHI)造船工場発展により昭和30年代後半には、相生工場は世界一の造船量を誇り人口も急増しました。しかし昭和後半から平成初期にかけての造船不況による工場の縮小に伴い人口減少は昭和50年42,008人をピークに急激な勢いで進んでいる。

○相生市の取り組み

人口減少に伴い年少人口(15歳未満)の割合も大きな問題となっていた。平成17年12.3%と兵庫県内でも最下位となる。将来推計人口でも30年後の年少人口減少率が▲62%と予測される中、課題解決の為、徹底した行財政健全化計画、そして子育て応援都市宣言を行い、子育て世代をターゲットに定住促進を図るべく、平成23年に“子育て応援都市宣言”をし関連事業を「11の鍵」として市内外へのPRを展開しています。

1. 新婚世帯家賃補助金交付事業
2. 住宅取得奨励金
3. 妊婦健康診査補助
4. 出産祝金支給
5. こども医療費助成
6. 子育て応援券交付
7. 3歳児保育事業
8. 私立幼稚園預かり保育事業
9. 給食費無料化
10. 相生っ子学び塾事業
11. ワンピース・イングリッシュ事業

事業実施後、現在も人口減少は進行中ではあるがスピードは半減した。また出生数は200人台を維持している。

○相生市を視察して思う事

人口減少の危機感の中、ターゲットを明確にし子育て世代への定住促進を全市一丸となり徹底して取り組んでいる姿に驚いた。テレビCMでのPRや、給食無償化も他に先駆けて始め、ワンピース・イングリッシュでは大学の専門家のアドバイスのもと幼稚園から中学までの総合的なプログラムを実施されていた。私も子育て世代であれば住んでみたいと心ひかれるまちでした。

開成町でも人口減少が起きないように今から取り組むべき参考となる事業もあると考えます。

令和元年度議員県外行政視察 派遣成果報告書（別紙）【兵庫県たつの市・相生市】

茅沼 隆文議員

所感等

兵庫県で公共交通空白地域の解消を目指した「たつの市」と子育て応援を宣言した「相生市」を視察し、それぞれの先進事例を勉強してきた。

たつの市は、人口約 76,000 人、面積約 211 km²（小田原市の 2 倍弱）、令和元年度一般会計当初予算・約 361 億円と言う規模の市である。

平成 29 年度当初に開始した「市民乗り合いタクシー事業」は、年間・約 77 百万円（国庫補助金 12 百万円を含む）を投入し、登録者数・約 12,300 人、延べ利用者数・約 139,000 人（利用の実人数・3,000 人）という事業であった。

利用料金は 1 乗車・障害者等は 200 円、一般は 400 円で、自宅前又は指定場所まで迎えに来るワゴン車で、市内 550 ヶ所の設定された目的地まで利用でき、障がい者や高齢者に対する配慮が行き届いている。

他に、コミュニティバス（年間利用者数・63,000 人、1 乗車・100 円）、定住自立圏圏域バス（利用者数・1,700 人、1 乗車 200 円）、8 路線の路線バスなどの交通機関があり、きめ細かい交通手段が構築されている。

開成町でも、自宅前まで迎えに来る乗り合いタクシー制度の適用が可能かどうか、関連する根拠法などを精査してみたい。

星野 洋一議員

所感等

相生市は兵庫県の南西部に位置し人口は 29,416 人、面積 90.4 km²の市である。昭和 17 年に市制施行し、豊かな自然と天然の良港である相生湾を擁しながら、造船所の企業城下町として栄え、工業を中心として発展してきた。

しかし、昭和 49 年以降人口の減少、特に年少人口減少が重要課題となり、そこで「第 2 期行政健全化計画」において「子育て応援都市宣言」を行い「あいおいが暮らしやすい 11 の鍵」として市内外へ PR 展開した。①新婚世帯家賃補助金交付事業②住宅取得奨励金③妊婦健康診査補助④出産祝金支給⑤こども医療費助成⑥子育て応援券交付⑦ 3 歳児保育事業⑧市立幼稚園預かり保育事業⑨給食費無料化⑩相生っ子学び塾事業⑪ワンピース・イングリッシュ事業を行い、その結果、将来人口推計において西播磨地域の中で相生市だけ上昇傾向を示している。

開成町は人口推計予測において、令和 4 年頃にピークを迎える。その後の定住策を考えるうえでも、相生市の保育一時預かりや延長保育で使える応援券の事業や、幼稚園における通常保育終了後の無料での預かり保育などは、興味深い事業であった。また児童の安全な放課後の居場所づくりの学び塾事業は興味深いものだった。

井上 三史議員

所感等

子育て応援宣言都市（兵庫県相生市）の定住・子育て支援事業を視察した。

最高人口は1974年の42,188人で、その後減少が続いている。2010年の人口31,158人をもとに人口問題研究所が予測する2040年の推計人口によると市の年少人口の増減率はマイナス62%である。

この課題を解決するために、市は行政資源の均一配分から脱却し選択と集中の地域経営を目指すことになり、2011年4月に子育て応援都市宣言を行い子育て世代をターゲットに定住促進を図ることになった。

11の定住促進関連事業を「あいおいが暮らしやすい11の鍵」としてPR展開している。2019年度当初予算に、①新婚世帯家賃補助金交付事業23,850千円、②住宅取得奨励金17,500千円、③妊婦健康診査補助19,416千円、④出産祝金支給2,403千円、⑤こども医療費補助43,000千円、⑥子育て応援券交付5,870千円、⑦市立幼稚園預かり保育事業5,757千円、⑧給食費無料化106,544千円、⑨相生っ子学び塾事業3,595千円、⑩ワンピース・イングリッシュ事業24,784千円を計上している。⑪として3歳児保育を実施。

定住施策開始以降、社会増減の幅が約半減しているという。2015年度末92人、2016年度末33人と2年連続の社会増となり一定の効果が認められる。

人口減少問題はどこも最重要課題である。

山本 研一議員

所感等

町会議員となって初めての県外行政視察であったが、今回視察した、たつの市、相生市共に大きな収穫を得ることが出来た。

たつの市は人口の割に面積が広い自治体のため、市内での買い物や通院など市内の移動手段として、全域で「市民乗り合いタクシー」を運行し、公共交通空白地域の解消をしており、その状況について説明を受けた。

相生市では、かつて造船の街として栄えた企業城下町が、その衰退とともに人口減少が進んでしまい、移住定住対策として「子育て応援都市」を宣言し、実践として「子育て応援施策“11の鍵”」を定め推進している様子を聞いた。

たつの市の事業では、きめ細かなデータを基に常に改善を心掛け、利用者の拡大に努めていること、相生市では子育て応援施策が功を奏し、人口減少に歯止めをかけることが出来たとのことで、それぞれの自治体が抱える固有の課題に対し、危機感を持ってその対策に真剣に取り組んだ様子を知ることが出来た。

担当者の気持ちの入った説明で、課題解決に向けた熱意と努力、本気の取り組み姿勢が伝わってきた。

そして何より、トップの福祉向上に対する強い想いが一番重要だということを改めて確信した。

石田 史行議員

所感等

たつの市デマンド交通（市民乗り合いタクシー）の取組みは、大変興味深い内容であった。市域面積約 200 k m²であるため、本町と単純比較は出来ないが、自宅まで迎えに来てくれて病院や駅、スーパーまで行けるとするのは住民からすると、この上なく便利であり、例えば 1 市 5 町の広域連携の取組みとして検討してみる価値はあるのではないか。ただその場合課題となるのは、地元交通事業者の理解がどこまで得られるかであろう。たつの市の事業者が全面的に市の取組みを理解、協力しているからこそこの事業は成り立っていると思われる。我が町の巡回バスの取組みも一定の評価を得ているとは思いますが、色々と要望が多いのも実情である。今回の視察で得た知見を無駄にしないよう、折りをみて行政に提言していきたい。

一方、相生市の子育て支援の取組みについては、子育て支援策のフルスペックという意味では一定の参考にはなったが、結局人口減少に歯止めをかけることは出来ていない現状をみると、子育て支援策にだけ財源を振り分けても限界があると感じた。少子高齢化に立ち向かう地方自治体の厳しい現状を垣間見たような気分であり、本町の現在がいかに恵まれた状況にあるのか実感した。

井上 慎司議員

所感等

相生市は財政状況の悪化が懸念される中、行財政健全化を進めながら、選択と集中により積極的な子育て応援施策と定住化促進施策を展開し、未来の世代に引き継ぐ持続可能な定住性の高さを目指して取り組んでいる。

視察内容である『子育て応援施策 11 の鍵』は同市の人口減少対策と定住化促進を押し進めるための目玉事業である。

財政の健全化から始まりこの事業が展開されるまでの勢いのある流れは、現在 5 期目を務める谷口市長の強いリーダーシップによるところが大きいと感じる。

子育てと教育に特化した 11 の施策のなかで、私が特に注目したのは寺子屋形式の学び塾事業である。事業実績の調査では、過去のデータとの比較で事業開始後は基礎学力の向上の効果がみられるとの話であった。

この 11 の施策は常に精査し市民のニーズを反映し進化させるとともに、高齢者福祉サービスも現状の維持に努めるとのことであるが、更なる新規事業の展開は財政的に厳しく苦慮されていることがうかがえた。

本町においても、現在の人口動向に驕ることなく定住化促進に務めるとともに、町民ニーズを把握した上で将来を見据えた大胆な施策展開を論じるべき時期に差し掛かっているのではないかと思う。

前田 せつよ議員

所感等

たつの市は、公共交通をとりまく現状と課題に向き合った結果「地域公共交通網形成計画」を策定し、併せて市は、新たに、市民乗り合いタクシー事業を平成 29 年度から市内全域で実施し、住民の買い物・通院などの移動支援に既存の公共交通と連動することで交通手段の空白地域を解消していました。

市民乗り合いタクシー運用については、予約型で乗り合い方式であり、予約センターのオペレーターのスキルを高めるなどとともに、事業実施後も、毎年住民からのアンケートを行っていました。たつの市での視察は、詳細な事業内容を多面的な視点から具体的に聞くことができ有意義なものでした。住民の声は十分に傾聴され反映されて、その中から事業化もなされ、常に、対応にもスピード感があることは住民サービス向上の理想的な姿でした。それは、何よりも安全安心なまちづくりに直結していることを再確認しました。

本町においても、町民の要望を十分に傾聴し迅速な対応を行うなかでまちが形づくられていくことは、町民サービスに関わる一人ひとりの資質力に大きく左右されることも肝に銘じたい。私も誠心誠意努力を惜しまず行動していくひとりでありたいと思います。

吉田 敏郎議員

所感等

兵庫県相生市は面積 90.40k m²、人口 29,333 人（10 月現在）で、財政状況の悪化が懸念される中、行財政健全化を進めながら「相生市活力上昇計画」を策定し、積極的な子育て応援施策や定住促進施策を展開し、未来の世代に引き継ぐ持続可能な定住性の高い『いのち輝き・絆でつなぐ・あいのまち』をめざし取り組んでいる。

○新婚世帯家賃補助金交付事業：賃貸住宅に入居された方に月額 1 万円の家賃補助を 3 年間行う。

○住宅取得奨励金交付事業：住宅を新築または購入された世帯に奨励金 25 万円を交付する。

○妊婦健康診査補助事業：妊婦健康診査にかかる費用を助成する（全 14 回分、102,000 円程度）

○給食費無料化事業（自校方式）：県費で栄養士を 4 人配置、地産地消で豊富なメニューと栄養バランスのとれたおいしいと評判の給食の無償化。

など、11 の施策を推進している。

公共施設のマネジメントとして、施設の老朽化、大規模改修、立て替え等苦しい状態である中でも、「子育て応援都市」を宣言し、子育てしやすい環境を整え人口減少対策や定住促進を推し進めている。現在は人口増であるわが町においても更なる定住促進につなげるためにも良い視察であった。